



令和4年6月24日

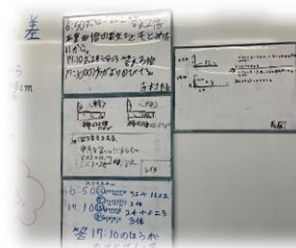
研究主題 「学ぶこと・考えることを楽しむ」

～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～

6月24日、今年度最初の校内研究が行われた。今年度1回目の校内研究は、「算数科」での実践となった。4年1組では、算数少人数の下川洪平教諭が『どのようにくらべようかな』の単元、6年2組では、飯尾太一教諭が『割合の表し方を考えよう』の単元で授業を行った。



まず4年1組では、理科の授業でも既習事項である朝と夕方のかげの様子を写真見て、「かげの長さは棒の長さの何倍か」という学習課題を児童と共に考えた。児童は、数などを根拠に文章や図にして、自分の考えをノートに書き進めていった。最後にミニホワイトボードに数人の児童が意見を書いて共有し、『倍の見方』への理解を高めていった。協議会では、目に見えないもの



の把握の仕方や、棒とかげで比べるものが違うところなどについて話し合いが行われた。

6年2組では、昨年掲示されていたポスターを題材とする授業だった。元となる1枚の紙と、縦と横の長さが異なる3枚の紙を提示するところから授業が始まり、「正しく拡大コピーできたのはどの紙か」という学習課題で学習が進められていった。児童からは、足し



の見方や倍の見方など様々な考えが出てきた。話し合いをするなどして、友だちと考えを共有し比較しながら理解を深めていくことができた。



研究協議会では、「授業・人」塾代表である田中博史先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。授業を通して、教師側が子どもから何を引き出したいのかを明確にすることで、児童が話しやすくなり活発に意見が出る環境を作ることができると教えていただいた。

今回ご指導いただいたことを意識しながら、算数科の授業だけでなく、他教科にも生かして、文教大学付属小学校全体で授業の質を高めていきたい。